



真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.63



ごあいさつ ~21年後に向けて『まちづくりのモデルチェンジ』を！~

皆さまの温かいご支援により、4期目の議員活動も残すところあと数ヶ月となりました。

これまでの4年間を振り返ると『教育・生涯学習の充実』を、まちづくりの理念として掲げ、『小中学校の学校図書館への専任司書配置』などの施策が実現しました。教員の多忙感解消に向けた『校務支援システムの導入』も現在検討が進められています。

昨年5月には、真岡市議会の第64代議長に選出され、日々の公務に追われながら、その職責の重さを痛感しているところです。

真岡市議会では、昨年4月に『議会基本条例』が施行。10月には『議会報告会・意見交換会』も初めて開催することができました。今後も、議会全体で一丸となって、議会改革・活性化の取り組みを進めていきたいと考えております。

今、日本国内を見渡すと『2040年問題』についての議論が、盛んに行われています。これから21年後、人口減少がさらに加速し、第2次ベビーブーム世代が65歳以上になる時代。『果たしてこの国のシステムは維持できるのか？』そうした懸念が広がりつつあります。

議会人の1人として、持続可能な社会の実現に向けて『まちづくりのモデルチェンジ』を一層推し進めていかねばならないと、気持ちを新たにしている今日この頃です。

中村 和彦

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！

お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

一般質問が実現します！



総合運動公園 陸上競技場 更衣室がリニューアル

総合運動公園内にある陸上競技場には、これまでも更衣室が2つありました。しかし、いずれも12㎡程度のスペースで、特にサッカーなどの団体種目で使用する際、選手達の着替えやミーティングをするのに支障をきたしていました。

3年後に開催される栃木国体では、サッカー少年男子の会場になることも予定されている中、この度、更衣室が大幅に拡充されることとなりました。なお、工事については2月中旬に完了する予定です。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

12月定例議会報告 12/3 ▶ 12/18

12月定例議会が、3日(月)から18日(火)の16日間にわたって行われました。

開会日の3日は議場コンサートが行われ『箏桜会』の皆さんによる箏の演奏が披露されました。

20議案が可決

今回の定例議会では、執行部から提出された『休日夜間急患診療所の設置及び管理条例の制定』、『市有財産の譲渡』(C11形SLを芳賀広域行政事務組合に無償譲渡)、『指定管理者の指定』(市民活動推進センター、リサイクルセンター、井頭温泉、チャットパレス、久保記念観光文化交流館、市立図書館の6ヶ所)など20議案が、いずれも原案通り可決しました。

また、9月定例議会から継続審査となっていた『難病医療費助成制度の改善を求める国への意見書提出に関する陳情書』については不採択となりました。

質疑・一般質問

議員による質疑・一般質問は、10日(月)と11日(火)の2日間行われ、今回は8名の議員が、執行部との論戦を展開しました。

執行部は答弁の中で、

- ◆現在、小中学校に設置されている空調設備について、国の補助金などを活用して、普通教室だけでなく、理科室や音楽室などの特別教室にまで拡充させる。
 - ◆来年度『中小企業・小規模企業振興計画』の策定を予定している。
 - ◆市立図書館の機能を、市役所新庁舎周辺に計画されている『まちのステーション』の中に完全に移転させていく。
- などの考えを明らかにしました。



「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜62号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

次回の「中村かずひこ通信」は

5月26日(日)

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

皆さんは、長野で行われた冬季オリンピックを覚えているだろうか。つい最近の出来事のようにも思うが、あのオリンピックが開かれたのは1998年(平成10年)。すでに21年が経過している。本当に『あつという間』に時は流れた。

最近、地方議員を対象とした研修会に参加をすると『2040年問題』をテーマにしたものが、すいぶん目立つようになった。総務省でも、一昨年10月に『自治体戦略2040構想研究会』が発足し、研究者などが集まって議論を進めている。

2040年の日本社会は、いわゆる『第2次ベビーブーム世代』が一斉に65歳以上となり、高齢者人口がピークを迎える。総人口は、毎年100万人近く減少すると予想され、その中でも生産年齢人口の減少は深刻で、労働力の確保が一層懸念される。

『2040年問題』に関する研修会に出ていると、特に『第2次ベビーブーム世代』に対して厳しい視線が注がれていることに気づく。出生数が毎年200万人を超えていた1971～75年生まれの、絶対数が多いのに加えて、

- 求職時期が『就職氷河期』と重なり、今なお低賃金。非正規雇用者も多い。
- 非婚・晩婚の割合が高い。
- 貯蓄を行っている者の割合や、預貯金額が少なく、今後は子育てと親の介護の『ダブルケア』により、貯蓄の目減りが一層懸念される。

そうした世代が一斉に高齢者になる。厳しい財政状況下、支える世代も少ない中で、この国は今後もシステムを維持できるのか?研修会の中身は概ねこういった内容で『第2次ベビーブーム世代』の、しかもピークである1973年(昭和48年)に生まれた私としては、聴いていて大変重苦しい気持ちになる。

この課題は、真岡市にとっても例外ではない。2040年の真岡市の人口は約6万7千人。市町合併した時の旧二宮町分にあたる人口が減少すると推測されている。



そんな話題を周囲に言うと『まだ21年も先の話でしょう』『もっと目の前にある課題を優先すべきでは…』という反応が返ってくる。

しかし、冒頭の話に照らし合わせれば、21年後というのは『あつという間』に訪れる。そもそも、人口減少をはじめ、現在起きている課題の多くは、数十年も前から警鐘が鳴らされてきたものである。そうしたことの解決を先送りしてきたからこそ、課題が顕在化するようになったに過ぎない。

社会のシステムは、短編急には変わらない。人々の合意を得て、政策となり、浸透するまでには相当の時間がかかる。だからこそ、21年後の社会に向けて、今から『まちづくりのモデルチェンジ』が必要だと思うのである。

少子化対策・教育

2015年に策定した『真岡市人口ビジョン』では、2040年の人口について、約7万5千人とすることを目標として掲げている。

そのためには合計特殊出生率を、現在の1.52から2.07にまで上昇させる必要があるが、これは決して容易なことではない。結婚や出産は、人によって価値観が異なる。それを変えるには、相当の時間を要する。

まずは『子どもを産みたい』と、現時点で考えている人々へのサポートすることが最も効果的ではないだろうか。

1つには多子世帯への経済的な支援、そしてもう1つが不妊治療が受けにくい家庭への支援である。特に、不妊治療は、経済的な問題だけでなく、治療そのものへの不安や、仕事などによる時間的制約といったカベが存在する。そうした課題にも光を当てていかないと、本当の意味での実効性は伴わないのではないだろうか。

学校教育については、幸いなことに真岡市ではここ数年、学力や体力の向上プログラムや、ICT教育の推進などの取り組みを着々と進めてきた。教育環境の充実、真岡市に住んでいる子ども達のために必要であるのに加え、移住を考えている市外の子育て世代に『選ばれるまち』になるためにも不可欠である。

今後の課題としては、不登校や特別支援教育といった課題にどう切り込んでいくかが挙げられる。相談業務で忙殺されている『臨床心理士』の増員や、県内他市と比べて遅れを取っている『教育研究所』の設置などは、早急に取り組んでいかねばならない。

2040年輝く未来であるために

雇用の創出

現在、真岡市では『第6の工業団地』が整備予定である。そして、その中の主力産業として、物流業を位置づけている。北関東道をはじめ、今日の真岡市を取り巻く道路網を考えると、最も強みを活かせる分野であり、至極当然の流れである。

しかし、今後人間の働く場が、人工知能やロボットなどに代替されていくことが予想される。仮に、企業が進出したとしても、以前のように大きな雇用の場にはなり得ないのではないかと、という疑問にぶつかる。

実際『今後10～20年の間に、日本の労働人口の約49%が就いている職業で、人工知能やロボットなどに代替される可能性がある』との推計も示されている。学校教育などの充実により『選ばれるまち』になったとしても、雇用の場がなければ、最終的に人口は流出する。

起業家を支援する研修、情報提供機関、拠点施設の一体的な充実を図り、地道に新しい職場産業を育てる努力をしていかねばならない。さらに、企業の本社・研究機能の移転を促すため、市独自の支援制度も併せて検討すべきであると考えます。

支えあいの仕組みづくり

『まちづくりのモデルチェンジ』を考える上で、議会や行政だけでは完結できず、市民同士の支えあいが不可欠なものも数多い。経済格差や地域間格差といった課題は、その代表格と言える。

例えば、子ども食堂や『買い物難民』問題解消のための移動販売車などは、行政が直接運営することが適切とは思えない。市民の主体的な活動を促すべきである。

また、市街化区域と市街化調整区域のあり方という課題については、これまで行政、議会、そして市民が何度も議論を交わしてきた。しかし、土地利用の制約もあり、その議論はかみ合ってこなかったという印象が強い。昨今、中心市街地へ人の流動を促す『コンパクトシティ』に向けた動きもある中で、市街化調整区域の活性化に向けて、官民一体となった研究会を立ち上げ、将来像に向けての認識を共有化する必要性を強く感じる。

さらに、市民同士が支えあうにあたっては『自立した人づくり』ということが欠かせない。かつて真岡市には『真岡市民大学』という生涯学習講座があった。

それをもう一歩進化させて、市民と行政が一体となって真岡市の未来について学び、話し合う『新・真岡市民大学』の創設といったことも、今後考えていかなければならないことだと思う。

『市民同士の支えあい』と聞くと、行政や議会は何も関わらなくてよいものと捉えられがちだが、決してそのようなことではない。そこには一定の仕組みづくりが求められる。

安全・安心のまちづくり

昨年は、全国各地で自然災害が相次いだ。災害はいつ、どこで発生してもおかしくないことを改めて認識した1年だった。

災害の対応については『自助、互助、共助、公助』と言われるが、その中でも初期段階では自助、互助、共助の部分が極めて重要とされている。であれば、市民の防災意識高揚を図るため『災害図上訓練』のさらなる普及は不可欠ではないだろうか。

また、指定避難所は水害の場合、非常に大きな課題を有しているところが多い。さらに、災害用備蓄倉庫も1ヶ所に集中しており、そうした公助の面でも、真岡市は改善すべき点が見られる。

安全・安心のまちづくりを考える上で『超高齢社会への対応』も避けられない課題である。

今後も高齢者人口が増加する中にあることは、可能な限り介護が必要でない状況、健康寿命を高めていく努力を怠ってはならない。しかし、残念ながら栃木県は、脳卒中による死亡率が全国でワーストに近い。その中でも真岡市は、栃木県内で特に悪い地域の1つである。

現在、真岡市では健康相談などが気軽にできる『まちなか保健室』が2ヶ所開設されているが、これを市内の様々な地域に増やす必要があると考えている。介護予防はもとより、福祉分野の相談機能も高められれば、福祉・医療の『横割りの連携』を進めることも期待できる。

今後、真岡市が取り組むべき課題について述べてきた。私達の目の前には、実に様々な課題が横たわっているが、悲観すべき事柄ばかりではない。これまで、私は『教育と生涯学習を軸としたまちづくり』を訴えてきたが、その取り組みといくつかの施策を組み合わせていければ『あつという間』に訪れる21年後も、真岡市は希望のある地域であり続けられると思うのである。

中村かずひの活動日誌

10月	11月	12月
1日 あいさつボランティア 市政功労者表彰式典 議会報告会・意見交換会に向けた勉強会	1日 矢板市市制施行60周年記念式典	1日 真岡市消防団忘年会
2日 『ひばりの会』定例会	2日 七井・松ヶ丘菜荘を訪問(「ひばりの会」の活動として)	3日 あいさつボランティア
6日 大谷地区福寿会定例会	4日 大谷広報編集委員会	12月定例議会開会
7日 井頭マラソン もおか木綿ふれあいまつり 弁財天&十五童子まつり	5~6日 大谷地区文化祭	4日 茨城県議会議員選挙の応援(於:茨城県取手市)
8日 西真岡保育園運動会	7日 青色回転灯/110-119実施者講習会	5日 真岡市身体障害者福祉会受賞者祝賀会
9日 尊徳夏まつり反省会	9日 長田土地区画整理事業竣工式	7日 ひまわり園訪問
10日 とちぎ次世代研究会研修会(於:高根沢町、さくら市) 花いっぱい運動表彰式	10日 芳賀郡市町議会議員自治研修会	8日 大谷地区男性料理の会
11日 真岡市役所新庁舎起工式 議会だより編集委員会 BS新日本の歌収録	11日 大前神社例大祭	10日 あいさつボランティア
	12日 さくら市議会議員選挙の応援	11日 秋の交通安全県民総ぐるみ運動街頭指導
	14~15日 あいさつボランティア 全国市議会議長会研究フォーラム(於:宇都宮市)	11日 質疑・一般質問2日目 議会報告会・意見交換会報告書を受け取り 真岡青年会議所卒業式 議会運営委員会・議会だより編集委員会合同協議会
		12日 議会だより編集委員会
12~13日 全国報徳サミット(於:神奈川県小田原市)	15日 農業振興地域整備促進協議会	13日 民生文教常任委員会
14日 大谷地区防災訓練 安全安心まちづくりフェスティバル	16日 年末の交通安全県民総ぐるみ運動・年末年始特別警戒推進代表者会議	真岡西中学校視察
15日 芳賀郡市町議会議員親善ゴルフ大会	17日 二宮神社例大祭	14日 総務常任委員会
16日 栃木県市議会議長会・研修会(於:さくら市)	倉山満氏講演会(於:栃木市)	15日 真岡自然観察会
18日 真岡市職員労働組合総会	真岡地区公民館まつり	親子で楽しむ合同クリスマス会
19日 真岡会	あいさつボランティア	16日 芳賀路ふれあいマラソン
20日 山前地区防災避難訓練	もおか鬼怒園開発株式会社臨時取締役会	17日 あいさつボランティア
21日 八條地区敬老会	真岡地区PTA連絡会との意見交換会	12月定例議会開会
22~24日 芳賀郡市町議会議長会行政視察(滋賀県豊郷町、甲賀市、京都府京都市)	真岡市教育祭	議員協議会
25日 老人・身障合同スポーツ大会	佐藤隆治・取手市議と面会(於:茨城県取手市)	叙勲祝賀会
議会報告会・意見交換会リハーサル	芳賀郡市町議会議長会	20日 在宅医療・介護連携推進事業研修会
27日 真若総会	乳用牛共助会	21日 ケーブルテレビ新春番組収録
28日 ふれあいフェスティバル	あいさつボランティア	22日 空手道糸東会修道者門競技大会
県民のつどい	会派代表者会議	大谷地区地域共助推進事業サポーター会議
29日 あいさつボランティア	議会運営委員会	日光市役所本庁舎落成式
議会報告会・意見交換会	議員協議会	25日 芳賀地区広域行政事務組合定例議会
30~31日 清溪セミナー実行委員会真岡市研修対応	27日 明治大学校友会栃木県支部役員会(於:宇都宮市)	26日 真岡新聞音訳作業(「ひばりの会」の活動として)
	29日 質疑・一般質問調整会議	

視察研修報告

11月5日(月)~6日(火)の2日間、議会だより編集委員会と議会運営委員会の合同による視察を行い、東京都あきる野市と群馬県桐生市を訪れました。

あきる野市

あきる野市議会の広報紙『ギカイの時間』は、全国でも高い評価を受けている。平成25年からタイトルを変更し、内容も大幅にリニューアルした。手に取ってもらえる表紙づくりだけでなく、市民に発信する情報を優先度の高いものに絞り、見やすさと分かりやすさにこだわっている。文字数を減らして『余白を恐れない』、『空欄を重視する』という方針は、従来の広報紙(何でも詰め込もうとしてしまいがち)とは真逆の考え方ではないだろうか。また『子育て』や『防災』など毎号テーマを設定し、テーマに因んだ市民の座談会なども掲載することで、より市民に広報紙に関心を持ってもらえるような工夫も施されている。

桐生市

桐生市議会において議会改革の機運が高まったのは、平成23年の統一地方選以降。市議選が低投票率だったことに危機感を募らせた議員有志が中心となって動き始めた。『議会基本条例の制定』や『議会報告会・意見交換会の開催』、さらには『常任委員会の開催方法の見直し』など、スピード感を持って制度の見直しを進めていった。平成27年の改選を経て『常任委員会による提出議案の充実化』、『議会全体による予算要望書の提出』など、政策立案の能力向上を推し進めている。こうした部分については、今回視察に参加した議員からも強い反響があり、真岡市議会としても参考にしていければと思う。

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。	総額	35,699円	出所	議会費のうち旅費など
※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。	内訳	交通費、宿泊費、議員日当		
※議員日当(3,300円×2日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。				

アンケートにご協力をお願いします

「市政アンケート」皆様の声をお聞かせ下さい。
下のハガキを書いて ▶ 切り取って ▶ ポストへ投函
(投函する際、切手は不要です。)

〒342-0390 真岡市熊倉町3423-4
真岡市議会議員 中村かずひこ行
料金受取人払郵便
真岡局承認
769
差出有効期間
2020年8月4日
まで
(切手不要)

真岡市熊倉町3423-4
真岡市議会議員
中村かずひこ行

市政アンケート

差し支えなければ、お名前、ご住所等もご記入ください。

お名前	(〒 -)
ご住所	
お電話	
Eメール	